

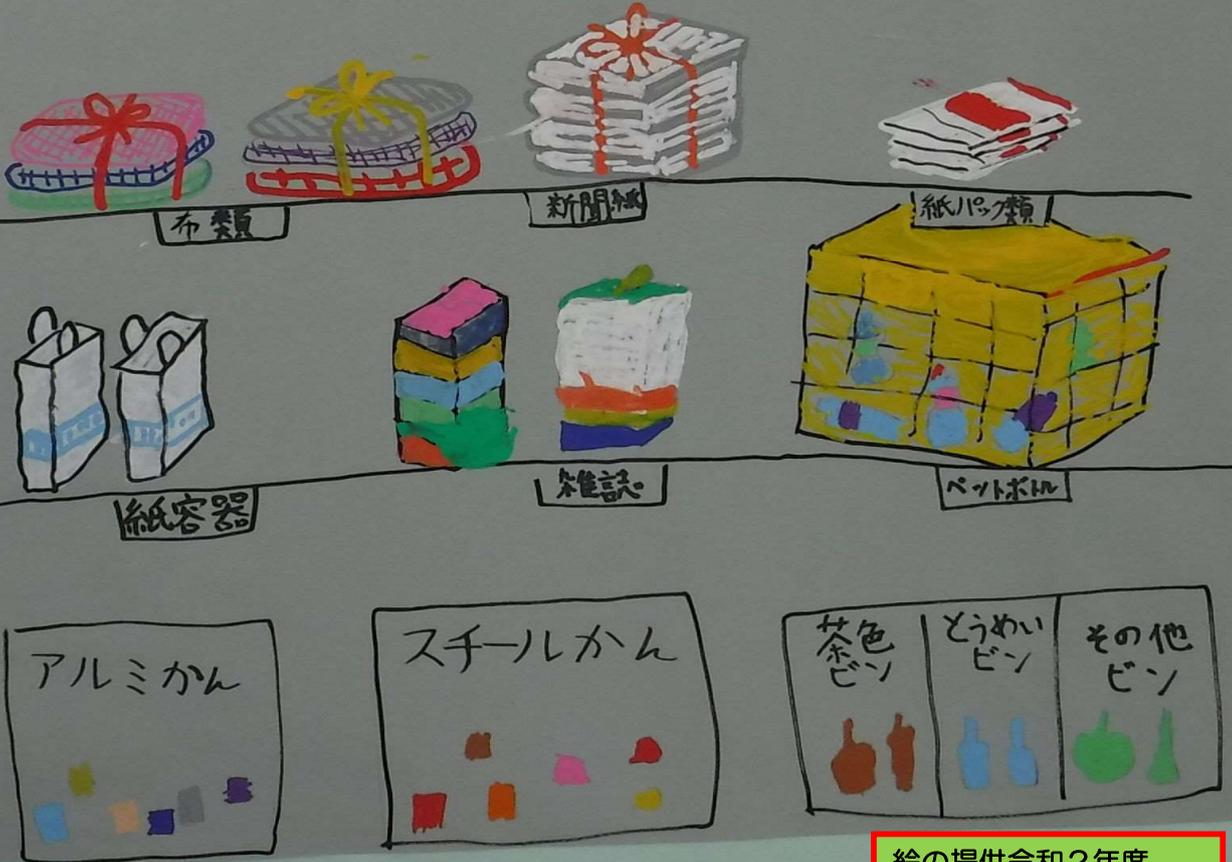
2021年度版

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

宍粟市のごみの減量とリサイクル

資源回収ステーション



絵の提供令和2年度
出前講座
波賀小学校4年生

混ぜればごみ
分ければ資源

12 つくる責任
つかう責任



宍粟市





穴栗市の現状と対策

ごみの排出量	1
家庭ごみの排出量	2
ごみの処理経費	3
ごみと資源物のゆくえ	4
ごみを減らす3つの理由	5

穴栗市の計画

一般廃棄物処理基本計画	6
ごみの減量目標・資源化目標	7

ごみの減量化対策

5R活動の推進	8
食品ロスの削減	9
生ごみの減量化	10
集団回収の実施	11



きちんと分別しましょう☺

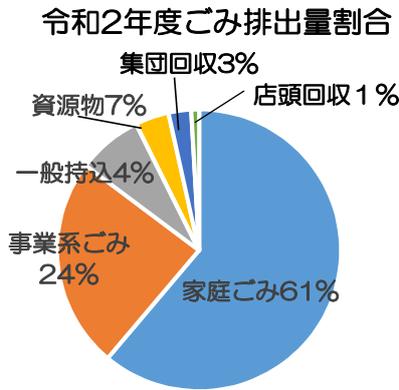


生ごみをなくそう。

穴粟市の現状と対策

ごみの排出量

(1) 年度別ごみ排出量



年度別ごみ排出量 (t)

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
家庭ごみ	6,254	6,355	6,302
事業系ごみ	2,330	2,486	2,492
資源物	707	707	763
一般持込	337	408	397
集団回収	666	610	266
店頭回収	85	78	91
合計	10,379	10,644	10,311



〈状況〉

年間に出るごみ総量は約1万トンとなっています。毎年、大量のごみが排出されており、ごみの排出量は横ばいの状況が続いています。そのうち、家庭からのごみが約3分の2を占めています。

〈対策〉

ごみの排出量は毎年3%ずつの削減を目指しており、令和2年度は3.1%を削減することができました。

(2) 市町別ごみ排出量の比較

平成30年度

順位	市町名	排出量 (g/人日)
1	多可町	668
2	市川町	705
3	加東町	734
4	神河町	739
5	丹波市	750
6	加西市	785
7	太子町	800
8	西脇市	800
9	穴粟市	802

令和元年度

順位	市町名	排出量 (g/人日)
1	多可町	678
2	市川町	724
3	加東町	738
4	神河町	739
5	丹波市	755
6	太子町	775
7	加西市	792
8	播磨町	810
9	西脇市	817
10	香美町	842
11	加古川市	843
12	穴粟市	845

*市町数：41市町

*排出量：1人1日あたりごみ排出量

*排出量には、瓦・ブロックなどの特殊ごみが含まれています。

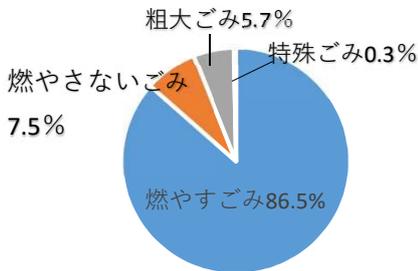
〈状況〉

穴粟市の人口は減少していますが、ごみの排出量は横ばいとなっているため、1人1日あたりのごみ排出量は、平成30年度と比較したところ、令和元年度の順位より下がっています。

家庭ごみ排出量

(1) 年度別家庭ごみ排出量

令和2年度家庭ごみの割合



年度別家庭ごみ排出量 (t)

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
燃やすごみ	5,560	5,611	5,453
燃やさないごみ	390	421	472
粗大ごみ	11	10	359
特殊ごみ	293	313	18
合計	6,254	6,355	6,302

<状況>

家庭ごみの排出量は、ごみ排出量と同様に横ばいとなっています。家庭から排出されるごみの**86.5%**が燃やすごみであり、そのうち、生ごみは**3割程度の量**となっています。



<対策>

生ごみの80%が水分であり、「**水きり**」をすることで重量の約10%を減量することができます。また、「**生ごみ処理機**」などの活用によりごみの減量化を目指しています。

(2) 生ごみ処理機の購入補助

生ごみ処理機を活用すると手軽に生ごみを減量・資源化できます。市では生ごみ処理機の購入補助をしています。

対象者 市内在住で単価5千円以上の生ごみ処理機等を購入した世帯

補助対象 対象経費の**2分の1以内**で**最大2万円**の補助が受けられます。

購入実績

(台)

年度	購入台数	うち			累計台数	備考
		バイオ式	乾燥式	コンポスター		
平成30年度	17	1	10	6	累計： 平成20年度から	
令和元年度	7		5	2		
令和2年度	22	2	16	4		

生ごみ処理機を活用して生ごみの減量を進めましょう

生ごみ処理機の効果

- ①生ごみの減量化によりごみ出しの負担軽減
- ②生ごみのニオイがなくなり、キッチンが衛生的
- ③有機肥料素材としてリサイクル
- ④ごみ収集所の衛生面とごみ処理削減に貢献



ごみの処理経費

ごみ処理経費

●令和2年度のごみ処理については、**7億3千万円**の経費がかかっています。
 ごみの排出量が横ばいにもかかわらず、令和元年度から約8千万円増加しているのは、にしはりまクリーンセンターの定期修繕のほか構成市町の減少により組合分担金が増したためです。
 ごみ処理経費は高額であるため、**ごみを減量**して、にしはりま環境事務組合の**負担割合を少なくする**必要があります。

(1) 年度別ごみ処理経費 (千円)

項 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度
歳出	収集運搬費	212,020	203,040	204,600
	組合負担金	428,340	432,590	510,160
	最終処分場費	17,630	19,030	20,660
	合 計	657,990	654,660	735,420
歳入	ごみ袋代金	30,250	31,300	30,460
	市の負担	627,740	623,360	704,960
	合 計	657,990	654,660	735,420
1人あたりの経費(円)		17,252	17,484	19,982

にしはりまクリーンセンター



パッカー車



にしはりま環境事務組合負担金

●**宍粟市のにしはりま環境事務組合の負担金は5億1千万円**となっています。
 負担金は、総務経費、運営経費、起債償還金と区分されており、ごみ処理に係る**運営経費はごみの搬入量によって負担金が変わります。**

(2) 令和2年度負担金 (千円)

項 目	負担金
宍粟市	510,162
たつの市	205,502
上郡町	212,110
佐用町	261,143
合 計	1,188,917

(3) 負担金の内訳 (千円)

項 目	負担金	負担金根拠
総務経費	26,631	人口按分・平等割
運営経費	263,191	搬入ごみ量割
起債償還金	220,340	人口按分・平等割
合 計	510,162	

*運営経費はごみ量により負担金が変わります。

ごみ搬出量の比較

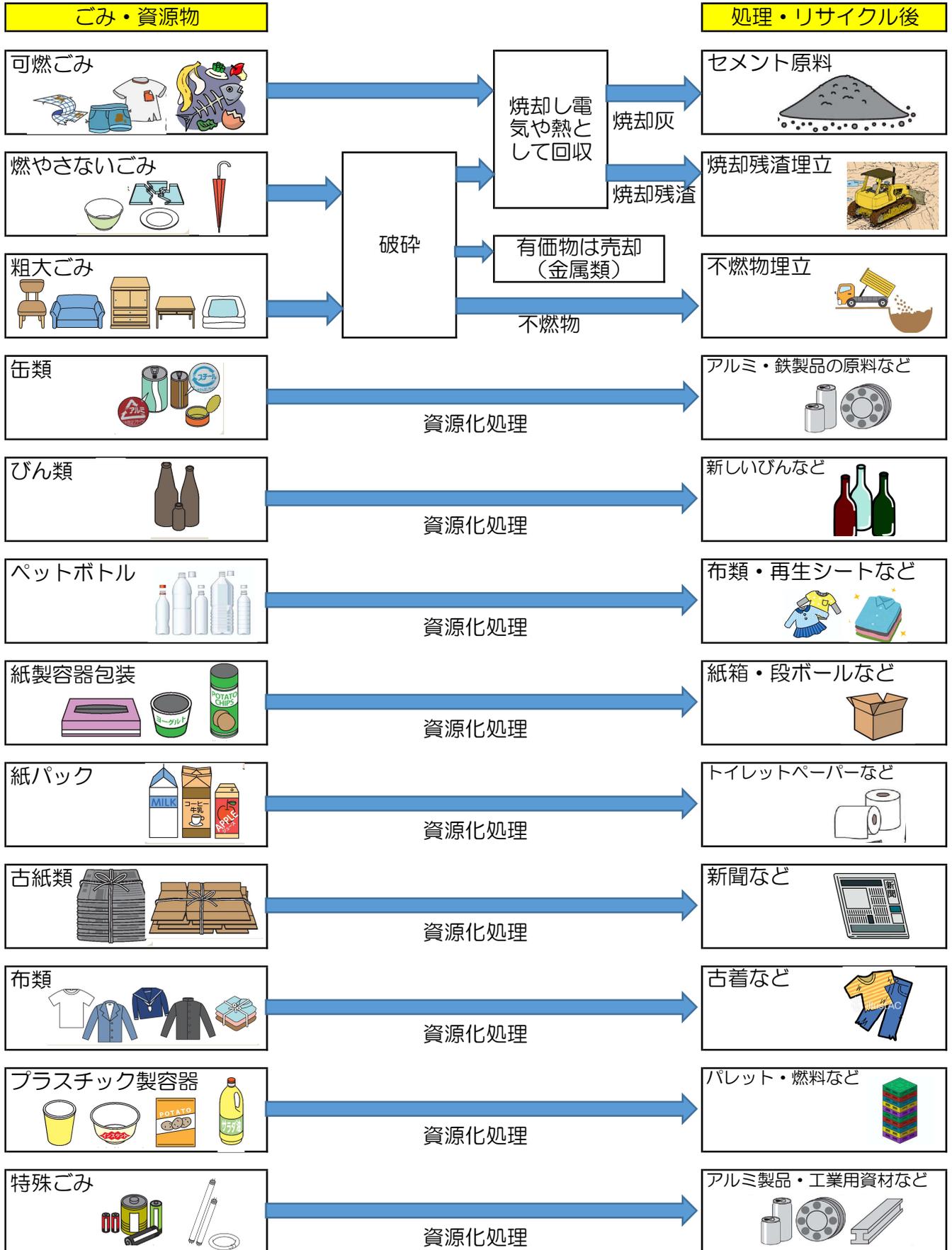
●宍粟市からにしはりまクリーンセンターへのごみ搬入量については、人口割(44.24%)で比較したところ、可燃ごみは41.32%と若干の減となっていますが、**不燃・粗大ごみが53.56%と大幅な増**となっています。

(4) にしはりまクリーンセンターごみ搬入量の実績 (令和2年11月~令和3年10月実績)

項 目	人口割 (R2国調値)		重量割		搬入ごみ量割			
	人口 (人)	按分率 (%)	ごみ搬入量 (kg)	按分率 (%)	可燃ごみ (kg)	按分率 (%)	不燃・粗大ごみ (kg)	按分率 (%)
宍粟市	34,852	44.24	9,419,420	41.74	7,831,400	41.32	1,339,120	53.56
たつの市	14,137	17.95	4,202,200	18.62	3,541,080	18.68	475,490	19.02
上郡町	13,896	17.64	4,218,440	18.69	3,627,200	19.14	307,890	12.31
佐用町	15,885	20.17	4,728,910	20.95	3,954,540	20.86	377,880	15.11
合 計	78,770	100.0	22,568,970	100.0	18,954,220	100.0	2,500,380	100.0

ごみと資源物のゆくえ

ごみ減量制度のもと皆様のご協力によって分別されたごみや資源化物がどのように処理・リサイクルされているか見てみましょう！



ごみを減らす3つの理由

ごみを大量に出し続けてきたことにより、下記のような課題を解決することが重要となっています。そのためには、循環型社会の実現に向けて、**廃棄物の発生・抑制**をするとともに、**リサイクルの促進**及び**適正処理**の推進を一層進めていかねればなりません。

環境負荷の軽減

現代社会で大きな問題となっている「地球温暖化」は二酸化炭素排出量に深く関係します。ごみ処理に伴って出る二酸化炭素は異常気象や環境問題につながります。

また、ごみは、もともとは天然の資源であり、大量消費、大量破棄の生活を続けると、資源はいずれ枯渇してしまいます。

ごみを減らすことは地球の自然環境や資源を将来に残し、循環型社会を形成していくために大切なことです。



にしはりまクリーンセンター



ごみ処理施設、最終処分地の長期使用

宍粟市から排出されたごみは、にしはりまクリーンセンターで処理しています。クリーンセンターは、高い稼働率で運転しており、施設や設備への負担が大きい状況が続いています。

また、クリーンセンターでごみを処理した際に排出される不燃残渣は、宍粟北残渣最終処分場で処理していますが、このままのペースでごみを出し続けると数十年後には埋立満了となります。

今後も安定したごみ処理体制を維持するためには、ごみを減らすことが重要で、市民1人ひとりの協力が必要不可欠です。

ごみの減量に取り組んで、宍粟の自然を守りましょう。

ごみ処理経費の削減

宍粟市のごみの処理には年間約7億円の経費がかかり、大きな財政負担となっています。

また、人口が減少する中、ごみの排出量は横ばいとなっているため、1人1日あたりのごみ排出量は年々増加しています。

これらの状況を改善するには、ごみを減らし、**ごみ処理にかかるコストを削減**することが欠かせません。



令和2年度 ごみ処理経費 (千円)	
収集運搬費	204,600
組合負担金	510,160
最終処分場費	20,660
合計	735,420

宍粟市の計画

宍粟市一般廃棄物処理基本計画（第2次中間見直し）【改定】

策定：平成22年度 中間見直し：平成27年度・令和2年度 最終年度：令和6年度

計画策定の目的

私たちは豊かな生活を手に入れた半面、天然資源の枯渇や地球温暖化など、地球規模で環境問題が生じています。このような状況に対して、環境の保全や環境負荷を低減させるため、「**持続可能な循環型社会**」の形成に向け、市が中長期的な視点に立って、**ごみの減量化・リサイクル及び適正処理**に関する基本的な方針を定めた計画です。

基本方針

(1) 循環型社会の構築

住民・事業者・行政の三者により、「循環型社会」の実現を目指して、「適正処理」から「循環処理」へのシステムに変換します。

(2) 環境保全

環境への影響を最小限にするため、マテリアルリサイクル^{【※1】}、サーマルリサイクル^{【※2】}等最適なごみ処理システムの構築及び施設整備を目指します。

(3) 住民参加

積極的な情報公開と住民参加型のごみ処理システムを構築することにより、廃棄物全般に関する住民意識の向上を図ります。

【※1】 廃棄物を回収し製品の原材料として再生利用する。

【※2】 廃棄物を回収して燃やし、これをエネルギーとして再使用する。

主な計画目標（令和6年度）

1人1日あたりのごみ排出量	リサイクル率
1人1日あたりのごみ排出量を集団回収、店頭回収を含め 700g以下 に減量する。 令和2年度排出量：766.8g/人・日	リサイクル率を 30%以上 にする。 令和2年度リサイクル率：24.69%

目標達成のための方針

●家庭ごみにおいて、水切りの徹底、食べきり運動の推進、ごみの分別の徹底を行い、1人1日あたりのごみ排出量を700g以下に減量する。

●現在燃やすごみに含まれている資源化可能物を資源となるように、家庭での分別の徹底をお願いし、燃やすごみを削減するとともに、リサイクル率30%を目指します。

今後の主な施策

- (1) ごみと資源の分別徹底
- (2) 循環型社会を構築するため「5R活動の推進」
- (3) 環境教育の推進
- (4) 情報発信の強化



みんなで減らそう
宍粟のごみ

穴粟市のごみ減量目標

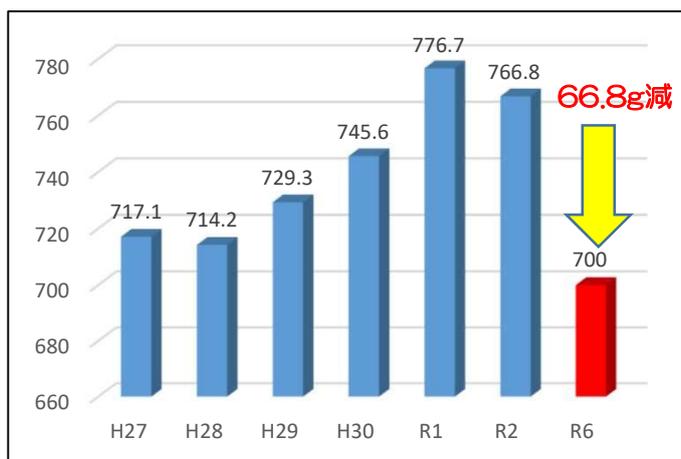
1人1日あたりのごみ排出量
700g以下（令和6年度）

穴粟市の資源化率目標

リサイクル率
30%以上（令和6年度）

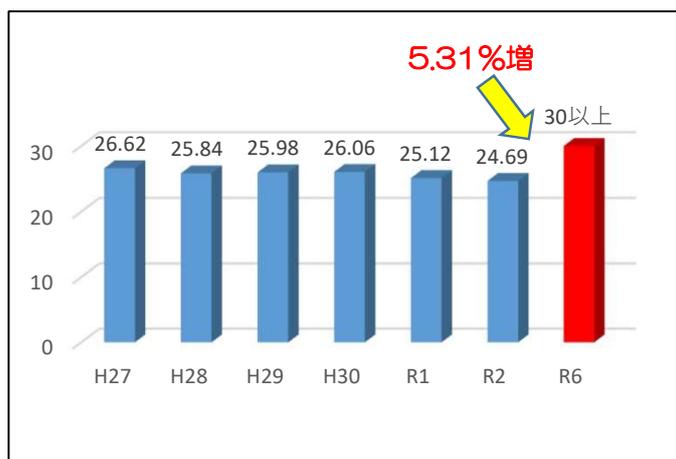
- 令和2年度の1人1日あたりのごみ排出量は766.8gです。例えばレタスの葉は1枚あたり約30gで2枚程度の量を減量すれば目標に近づきます。
- 令和2年度のリサイクル率は24.69%であり、目標の30%には550tのリサイクルが必要となります。コロナ禍により集団回収の回数が減り344tの減となっています。集団回収の実施と資源物の分別を徹底するなどリサイクルの向上を図る必要があります。

1人1日あたりのごみ排出量 (g/人・日)



実績 目標

リサイクル率 (%)



実績 目標

年度別ごみ排出量 (t/年)

区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
燃やすごみ	7,770	7,758	7,749	7,765	7,930	7,807
燃やさないごみ	416	439	480	432	476	542
資源物	638	601	583	707	707	763
特殊ごみ	11	10	10	11	10	18
粗大ごみ	697	581	653	713	833	824
家庭ごみ他合計	9,532	9,389	9,475	9,628	9,956	9,954
集団回収量	927	831	780	666	610	266
店頭回収量	66	69	80	85	78	81
ごみ総排出量	10,525	10,289	10,335	10,379	10,644	10,301
1人1日あたりごみ排出量(g)	717.1	714.2	729.3	745.6	776.7	766.8

年度別リサイクル量 (t/年)

区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
古紙類	81	86	69	209	208	263
紙パック	1	1	1	2	3	3
姿勢容器包装	54	48	47	47	49	47
布類	79	71	69	63	64	60
金属類	188	184	201	223	229	298
ガラス類	177	219	198	203	180	179
ペットボトル	21	22	23	32	43	44
プラ製容器包装	145	131	123	117	107	122
その他	19	11	18	15	17	27
焼却残渣	1,044	986	1,076	1,043	1,087	1,153
集団回収	927	831	780	666	610	266
店頭回収	66	69	80	85	77	81
資源化量	2,802	2,659	2,685	2,705	2,674	2,543
リサイクル率 (%)	26.62	25.84	25.98	26.06	25.12	24.69



1人1日あたり排出量とリサイクル率の目標を達成できるよう
もっとごみを減らしたり、分別を頑張らなくちゃ！

ごみの減量化対策

5R活動の推進

みんなで循環型社会をめざしましょう！

5つのアール

ごみを減らす5Rをはじめよう

近年、地球温暖化や資源の枯渇、ごみ問題など地球規模での環境問題が深刻化しており、資源を有効に活用し、ものを大切に使う環境にやさしい「循環型社会」への転換が求められています。この循環型社会をつくるには、住民、事業者、そして行政が協働して取り組む必要があります。そして一番大切なことは、私たち一人ひとりが日々の生活の中でごみを減らすことです。そのキーワードが【5R(5つのアール)】ちょっとした工夫でご家庭のごみを減らすことができます。ぜひ、できることから始めましょう。

循環型社会の「もの」の流れ

1 リフューズ Refuse
不要なものを買わない、受け取らない。
・買い物袋を持参しよう！

2 リデュース Reduce
ごみの発生を抑える、減量化する。
・調理の際には適量を心がけ食べ残しをしない。

3 リユース Reuse
一度使っただけで終わらせず何度も繰り返し使う。
・詰め替え商品を選ぶ。
・人に譲ったり、フリーマーケットを活用しよう！

4 リペア Repair
使えるものは修理してできるだけ長く使う。
・故障しても修理や部品交換で長く使いましょう。

5 リサイクル Recycle
原材料として再生して利用する。
・ごみの分別をきちんと行いましょう！
・エコマーク・リサイクル製品を積極的に選びましょう！

廃棄物の排出抑制や再資源化促進し、循環型社会の構築を進めるためのキーワードとして、「5R活動の推進」を掲げています。

ごみの減量化・リサイクルを進めるためには、それぞれが5R運動に積極的に取り組むことが必要です。

5Rの心がけ

- ① **リフューズ (Refuse)**
 - ・ 過剰包装は断る。
 - ・ マイ容器・バックを使う。
- ② **リデュース (Reduce)**
 - ・ 必要なものを必要なだけ購入する。
 - ・ 食品を作りすぎない、食べ残さない。
 - ・ 生ごみの「水切り」「生ごみ処理機」により減量化に努める。
- ③ **リユース (Reuse)**
 - ・ リサイクルショップ、バザーを利用する。
 - ・ 粗大ごみの再利用するための「ジモティー」を活用する。
- ④ **リペア (Repair)**
 - ・ 修理して長く使う。
- ⑤ **リサイクル (Recycle)**
 - ・ 資源を正しく分別し、資源物回収ステーションに出す。
 - ・ 地域の集団回収や店頭回収など、様々なリサイクル活動に参加する。

リユース活動を促進するジモティーとの連携協定

ジモティーの使い方

使っていないモノを

無料でだらくらく投稿できる！

その投稿に連絡がきたら

地元で直接渡そう！



「捨てる」から「譲る」へ。
まだ使える物はジモティーでリユース。
株式会社ジモティーが運営する地域の情報サイトのことで、月間1000万人以上のユーザーが利用しています。

家庭で使わなくなった不用品等をスマートフォンやパソコンを利用して掲載することで、無償で譲与したり売買することができ、手軽にリユースを始められます。

粗大ゴミが、コロナ禍以降に急激に増加したことにより、ごみの減量化対策のため、リユース活動の促進に向けた連携と協力に関する協定を締結しています。

不要なものを捨てる前にジモティーへの出品を検討してください。



くわしくは
こちら

食品ロスの削減

食品ロスとはまだ食べることができるのに捨てられてしまった食品のことです。
日本の食品ロス量は年間600万トンを超えて、約半分が家庭から発生していると言われています。
宍粟市でも、食品ロスが発生していますので、**家庭系食品ロス**をはじめ**事業系食品ロス**を減らすことを推進をしています。

食品ロスを削減するには

1. 冷蔵庫は週に一度は整理整頓

- ・週に一度は整理整頓をして、食べ忘れを防ぎましょう。

2. 買い物は必要な分だけ買う

- ・必要な物を必要な時に、必要な量だけ購入しましょう。
- ・食品は手前から買いましょう。

3. 外食の時には食べきれる量を注文する

- ・小盛りや小さなサイズのメニューを活用しましょう。
- ・食べ残しは持ち帰りましょう。
- ・3010（さんまるいちまる）^{※1}運動を実践しましょう。

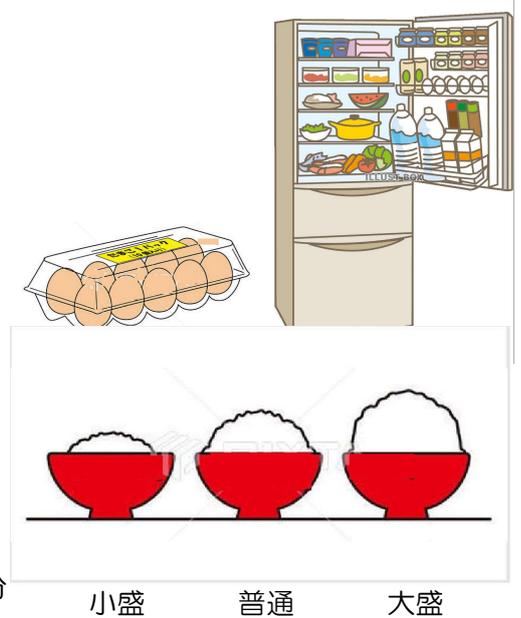
〔※1〕食品ロスを減らすための運動であり、宴会の開始から30分と終了の10分前には席に座って食事を楽しむ。

4. 料理をするときは食材を使いきる

- ・残っている食材から使う。
- ・料理は作りすぎないようにしましょう。
- ・もし食べられなかった場合は、他のメニューに作り替えるなど、献立や調理方法を工夫しましょう。

5. 食品ロスもったいない運動

- ・播磨圏域連携中枢都市圏（8市8町）では、「食品ロスもったいない運動」や「手前どり運動」でスーパーマーケット等を対象にポスターの掲示、レールPOP、チラシを配布し、食品ロスの削減に取り組んでいます。



ポスター



レールPOP



生ごみの減量化

宍粟市の生活ごみの約30%を占める生ごみは、80%程度が水分です。ごみの減量目標として、1人1日あたり排出量を700g以下としていますが、令和2年度の排出量は766.8gとなっています。生ごみの減量対策は多々ありますが、**段ボールコンポストの作り方**を紹介します。



1. ダンボール箱を2箱組み立てます。



ガムテープで隙間をふさいで、虫の侵入を防ぎます。

2. 2箱重ねて容器を作ります。



容器の強度を上げることで、水分で底が抜けないように2箱重ねて補強します。

3. 基材を箱の中に投入します。



ピートモスと燻炭を3：2の割合で投入し、よく混ぜます。基材はホームセンター等で購入可能です。

4. 使い古しのTシャツでカバーを作ります。



通気性を保ち、虫の侵入を防ぐため、袖口等を縫ったTシャツをかぶせます。

5. ダンボール箱を設置して、生ごみの投入を開始します。



風通しを良くするため、網目状の台にダンボールを設置します。

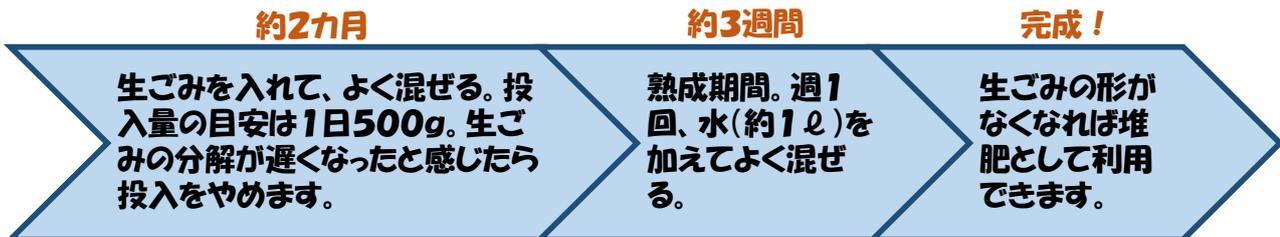
堆肥化



◎ダンボールコンポストの手入れについて

- ・生ごみを入れない日も1日1回は全体をかき混ぜ、空気を入れましょう。空気を送り込むことにより、微生物の動きが活性化します。
- ・かき混ぜた後は毎日カバーをかぶせて、虫に卵を産ませないようにしましょう。

◎生ごみ堆肥スケジュール



集団回収の実施

集団回収は、市民の皆さんで構成するPTA・子ども会・自治会などの住民団体が、自主的に家庭から出る古紙などの資源物を回収し、回収業者に引き渡しリサイクル活動のことであります。



地域の皆さんで取り組めば、**ごみの減量・リサイクル意識の向上**につながるとともに**地域団体の活動資金**としても役立ちます。

集団回収の効果

<p>ごみの減量・リサイクル意識の向上</p>	<p>生きた環境教育の実施</p>
<p>ごみ処理費用の削減</p>	<p>地域団体の活動資金の創出</p>

集団回収の補助

資源ごみの集団的な回収運動を奨励するため、資源ごみ回収業者に引き渡した資源ごみの重量に対して奨励金を交付します。

紙類

- 新聞
 - 雑誌
 - 段ボール
 - 紙パック
- 1kgにつき10円

衣類他

- 古着
 - ペットボトル
- 1kgにつき10円

缶類

- アルミ缶
 - スチール缶
- 1kgにつき5円

びん類

- ビールびん
 - 一升びん
- 1kgにつき5円

*回収できるもの・回収方法（きれいに洗う、ひもで縛るなど）は、資源物回収業者によって異なりますので、事前に回収業者に相談ください。

集団回収とリサイクル率

(t)

区分	H30	R1	R2
古紙類	209	208	263
紙パック	2	3	3
姿勢容器包装	47	49	47
布類	63	64	60
金属類	223	229	298
ガラス類	203	180	179
ペットボトル	32	43	44
プラ製容器包装	117	107	122
その他	15	17	27
焼却残渣	1,043	1,087	1,153
集団回収	666	610	266
店頭回収	85	77	81
資源化量(計)	2,705	2,674	2,543
リサイクル率(%)	26.06	25.12	24.69

〈状況と効果〉

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、集団回収が実施できない時期があったため、令和2年度には集団回収量が266tと減少しました。

令和元年度と比較したところ、集団回収量が344 tの減少となり、一部の資源物は回収ステーションでリサイクルされましたが、資源化量は減少しています。

集団回収は、「ごみの減量・リサイクル意識の向上」、「ごみ処理費用の削減」等の効果があることから、集団回収を実施してごみの減量を図る必要があります。

集団回収の実績

区分	回収量	件数	補助金額
H30	666 t	33件	6,506,300円
R1	610 t	33件	5,979,200円
R2	266 t	18件	2,605,700円

2022.3.4

穴粟市のごみの減量とリサイクル

令和4年3月作成

穴粟市市民生活部生活衛生課

〒671-2593 穴粟市山崎町中広瀬133番6

TEL 0790-63-3506 FAX 0790-63-3063